

第32回麻布環境科学研究会 市民公開講座1

ガン・慢性病対策としての今後の新しい生命観

森下 敬一

国際自然医学会会長
お茶の水クリニック院長

[1] 慢性病対策に「戦陣医学」は無理

年々歳々、癌・慢性病は増加の一途を辿っている。“生活習慣病”とも謂われているが、実態は文明の利器と有機合成化学薬剤つまり医薬品の蔓延によるものだ。

現代西洋医学の形態は、1853年のクリミア戦争（又はトルコ戦争）時の戦陣医学に遡る事が出来よう。ロシアの南下をトルコが喰い止めようとし、英国と佛国がトルコ側に加担した。英国軍と共にナイチンゲール看護婦部隊をもクリミア半島に上陸させたのである。

テントに担ぎ込まれた負傷兵の銃弾を摘出除去し、傷口の消毒を日々実施しつつ、兵隊達は自らの若さで負傷を快癒させていく・・・という成功例続出。

現代西洋医学は、160年前のこの記憶を引き摺り、癌・慢性病に対しても亦、戦陣医学方式即ち「病根摘出（外科手術）」と「病巣殺菌（化学薬剤投与）」を主軸とする攻略法を実施。然し多くは病勢増強と病状凶悪化を招き現在に至っている。

医学の成功が「病状軽減化」や「病人・病種の減少」にあるとすれば、現行西洋医学は失敗の審判となるだろう。

[2] 生命の根源は「マッチ箱」外の四～五次元世界

そもそも「生命」は四～五次元の問題である。然し西洋（肉食）人種は、「Seeing is believing」の「見える物のみ実在する」哲学によって、今尚支配されている。

車輻・飛行機・ロケットまでなら三次元の物理学原理でも成功させられるであろうが、生命問題は三次元のマッチ箱内原理では制御出来ない高次元の命題であ

る。“日進月歩の医学”と謂われながら、実際に進歩しているのは病気の種類と病人の数・・・の皮肉な現象も、生命問題を終始三次元的に取扱ってきた必然的な結果であろう。

マッチ箱内の見える物質的存在は、全て現代物理学的法則に則り動かされている。箱の中の生命は、マッチ箱内の物象を感觸すると同時に、マッチ箱外の四～五次元生命E（エネルギー）即ち「氣」を受容し生活している。マッチ箱内の生命体は、物質的・三次元的側面と眼に見えない四～五次元・生命E関与の側面の、両側面を持つ存在である事を見落してはならない。

[3] 胎生期の超常的活劇

人間はこの世に登場する以前から、四～五次元の無限大の宇宙Eや生命E（即ち“氣”）を頂戴し、その影響を受けてきた。典型的な代表例は、10ヶ月に及ぶ胎生期の驚異的な成長の話である。

「個体発生は系統発生を繰返す」と謂う胎生時の超常的激変が、母体の食料から得られる一日2千～3千キロカロリー程度の微弱エネルギーに由って惹起されよう筈は断じてない。

仮りに地上の生命誕生を30億年前とすると、「1日＝1千万年」相当の進化論的活劇は、マッチ箱外の宇宙からの四～五次元的生命Eの導入によってのみ成立し得る現象なのだ。

この世に生まれてからの赤子は、マッチ箱内住人として現実の物理的原理と半ば妥協しつつ生きてゆく。

一種の総合的消化器官でもある人体は、当然の如く食べる事を覚え、幼・少年期を駆け抜け、壮・老年期

に至るが、終生、四～五次元生命 E と無関係に生きて行く事は出来ないのである。

[4] 腸管及経絡の二重造血現象

人体や動物体の生理的造血機能は、通常、腸管絨毛に於ける所謂「腸管（絨毛）造血現象」（森下 1960）として営まれている。この場合、食物がその造血素材となる。人体造血現象は、もう一つの造血即ち「経絡造血現象」（森下 2003）との二重装備となっている処が面白い。

「経絡造血現象」は、血液中に廃棄されている脈管系プラークを約 60 年間掛け観察し続けた結果、発見された。これによって「何故、“氣”が経絡内を流通する必要があるのか」に対応する解答が得られた事にもなるだろう。

森下研究陣によって命名された「鳳巴血管」^{ボンバ}即ち幼若型経絡組織の一部に生命最小単位「ソマチッド」の

密集が認められ、体外の氣が取り込まれて、この超微細顆粒が漸次成大し、遂に淋巴球に発展する。この淋巴球は、やがて Hb（ヘモグロビン）を取り込み、赤血球化してゆく。

腸管造血現象では、絨毛上皮細胞から「赤血球母細胞」が派生し、母細胞内に赤血球が胞子形成過程を経て形成される。また当該母細胞の核が最終的には淋巴球となって腸管免疫の第一線に立つのである。

経絡造血現象では、鳳巴血管（幼若型経絡組織）内の超微細顆粒（生命最少単位）が、体外からの四～五次元生命 E（即ち氣）によって発育し、血球化してゆく・・・という次第だ。

以上の事柄を踏まえ、1989 年来「氣能医学」の視点に立った「人体生理」と「人体を取巻く環境」「癌（慢性病）と長寿」等の基礎医学的研究を試みてきた。

今回は、その最初の一部分に触れてみよう、と思う。